

災害・環境管理 ワーキンググループ



看護師 本間 雅代

災害時、迅速に 対応できる環境づくり

病棟での消火・移動訓練を実施

近年、水害、電車の脱線、地震など災害のニュースが絶え間なく報道されています。当院でも災害に注目し、火災や地震などに備えた環境づくりに取り組んでいます。以前は通路に日常的にあったワゴンや車椅子も現在は少なくなり、いつでも避難通路として使えるよう整備されてきました。

昨年10月、病院の総合防災訓練の一環として、7A病棟で消火訓練を実施しました。震度6強の地震が発生し、その後デイルームで火災が発生したという想定でした。

今回は、初期消火を行ないながら、まず自分で歩ける患者さんを非常階段に誘導、次に介助がないと移動することができない患者さんの避難準備をし、隣の病棟へ防火扉を開けて水平に避難する訓練に重点を置きました。ストレッチャーや車椅子その他の移動訓練を実施し、今後の移動方法について検討することができました。

災害に備えてシミュレーションを

ここでの反省を踏まえ、災害発生時の役割分担についてもスタッフ個々が意識して働けるように、毎日の業務分担表に大まかな役割の記載を始めました。

日頃からイメージできていないことに実際に遭遇した際、人は適切に行動できないと言われていました。

今後も、いつ起こるかかわからない災害に対し、日常的にいろいろな場面をシミュレーションできる場を持ち、備えていきたいと考えています。また、それを病院全体で実施していけるよう取り組んでいます。

実際に災害が発生した際は、近隣の方々の協力が不可欠であると予測されます。そのため近隣の方々とのコラボレーション(共同、協調、援助)が取れるような体制づくりができればと願っています。



看護部よりこんにちは

— 私たちが患者さんのケアをしています —

